

N

F

C

NFC CALENDAR

大ホール(2階)

A 映画生誕百周年記念
シネマの冒険 闇と音楽
Silent Film Renaissance 1995
10月24日(火)～11月2日(木)/11月4日(土)
料金＝一般770円 学生490円 小人350円

B 映画生誕百周年記念
ブリジット・ヴァン・デル・エルスト講演会
A Cinema 100 Anniversary Lecture by Brigitte van der Elst
コニカラー：甦る国産カラー・プロセス
「緑はるかに」特別上映会
Special Screening of a Restored Konicolor Feature:
Midori Harukani/Far off in the Green
11月3日(金)
入場無料

展示室(7階)

映画生誕百周年記念
ポスターでみる日本映画史ーみそのコレクションよりー
Japanese Film History in Posters - From the Collection of Kyohei Misono -
10月17日(火)～11月4日(土)/11月14日(火)～12月23日(土)
午前10時30分～午後6時(入場は午後5時30分まで)
入場無料

- 上記の期間中、小ホールでの上映はありません
- 10月・11月の休館日：日曜日・月曜日、10月10日～10月14日、11月7日～11月11日

大ホール
定員＝300名
発券＝1階エントランスホール

- 観覧券は当日・当該回にのみ有効です。
- 発券は開映の1時間前から行ない、定員に達し次第締切となります。
- ホールは、開映30分前に開場します。
- 開映後の入場はできません。

図書室(4階)

開室日＝火曜日～金曜日(午前10時30分～午後6時、入室は午後5時30分まで)
休室日＝フィルムセンター休館日および土曜日・祝日(11月3日、11月23日)

東京国立近代美術館フィルムセンター
National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo



1995
10

NFCカレンダー
1995年10月号

大ホール上映作品・イベント

シネマの冒険 闇と音楽

忠次旅日記

1991年の暮れ広島市で発見され、翌1992年に当フィルムセンターで復元上映した伊藤大輔監督の「忠次旅日記」は、長く幻の名作と伝えられてきたこともあり、映画研究者や愛好家の間で大きな反響を呼んだ。内容的には、三部曲のうちの「信州血笑篇」の一部と「御用篇」のかなりの部分を含んだプリントであり、欠落場面も多々あるために説明字幕をつけた復元版で

ある。その後、上映に関しては、再上映や映画祭等各地での企画にも協力し、一定の成果をあげたと思われる。そこで、今回は当初から要望の強かった弁士付きの上映会を催し、視覚ばかりではなく、聴覚も含めた全身でこの名作を味わっていただくこととした。弁士は以下のお二人にお願いし、それぞれの持ち味で「忠次旅日記」を語っていただくことになっている。(94分・18fps・35mm・無声・染色版・弁士付き)

記」を語っていただくことになっている。(94分・18fps・35mm・無声・染色版・弁士付き)



'27(日活) 伊藤大輔 渡会六蔵(血笑篇) 唐沢弘光(御用篇) 大河内傳次郎、中村英雄、中村吉次、阪本清之助、磯川元春、沢蘭子、尾上華文、中村紅果、市川百之助、伏見直江

弁士紹介

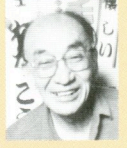
澤登翠(さわとみどり)

東京都出身。故松田春翠(無声映画鑑賞会)の門下。法政大学文学部卒。「弁士」というユニークな存在が忘れられていく時代に、あえてその道を志した戦後派である。定期的開催される「無声映画鑑賞会」「澤登翠の活弁シネマ館」(恵比寿)や海外の映画祭などで活躍している。現代劇、時代劇、洋画と幅広いレパートリーを持ち、また映画評論の執筆や映画出演など、その積極的な活動を通して、「伝統話芸・活弁」を支える貴重な存在となっている。1990年日本映画ペンクラブ賞受賞。1995年日本映画批評家大賞ゴールデン・グローリー賞受賞。



わかこうじ

1923年生まれ。名古屋市出身。幼いころから活動写真＝映画に魅せられ、少年のころから弁士を志した戦前派のベテランである。徳川夢声に師事。戦後は映画会社、映画館勤務など主として芸能関係の仕事の続けながら、1963年には、地元名古屋で無声映画の発掘と保存、普及を目的とした「懐かしの映画鑑賞会」を主宰。散逸していく旧作フィルムの収集やサイレント映画の弁士付き上映を通して、映画文化および地域の文化振興に貢献している。その活躍は近年は、中部圏から四国、九州など全国に広がっている。1994年度第9回大衆文化賞受賞。



A-1 10/24(火)6:30pm(担当弁士・澤登翠) 11/2(木)6:30pm(担当弁士・わかこうじ)

乳姉妹(ちきょうだい)

原作は菊池幽芳が1903年に大阪毎日新聞に連載した家庭小説。新派がこれを舞台化したのが翌1904年、大塚朝日座と天満座の公演であった。続いての東京公演も好評を博し、繰り返し上演されることで、新派の当たり狂言の一つとなったものである。したがって、多くの題材を新派に求めた初期の活動写真では度々映画化された、いわば観客にとっては周知の物語であった。アメリカでの発見の経緯と復元については、ニューズレター(3号)が詳しい。なお、一部や見づらい部分がある事をお断りしてお。

男爵、松平昭定(岩田祐吉)は君江(吉川満子)との間に一女、房江を設けた後、台湾へ出かけたが病氣

のために入院。君江は看病のため房江を岸和田在の乳母、田川浜(葛城文子)にあずけ台湾へ向かう途中、遭難して命を落とした。18年かたった。房江(川崎弘子)は乳母の娘、君枝(岡田嘉子)を姉として育ち、聡明な娘になっていた。君枝はアメリカ帰りの青年、高浜(岡譲治)と恋仲になっていた。房江が望まれて家庭教師となり和歌山に滞在中、浜が死んだ。その死の間際、浜は房江が松平昭定の令嬢であることを君枝に告げた。だが、君枝は房江には、自分が松平家の娘であると嘘をつき、翌年、昭定を迎えられた。昭定は恩返しとして房江も自邸に迎えるが、二人の乳姉妹が同居し始めると、昭定の養子、昭信(山内光)との間に三

角関係が生じた。昭信は房江を愛していたが、姉を思いやる彼女は身を引き、昭信は君枝と結婚することとなった。その当日、彼女に裏切られた高浜は彼女を刺した。死の床で真実を告白して君枝は死に、昭定は今では修道院に居る房江を迎えに行くが、彼女は父に自分は神に仕えて生きていくと告げるのだった。(137分・24fps・35mm・無声・白黒・ピアノ伴奏付き)



'32年(松竹) 野村芳亭 菊池幽芳 川村花菱、久米芳太郎 長井信一 脇田世根一 岡田嘉子、川崎弘子、岩田祐吉、吉川満子、山内光、岡譲治、葛城文子

A-2 10/25(水)6:30pm 11/4(土)3:00pm

突貫小僧

人攫いでも出そうな日中である。隠れん坊をして遊んでいた鉄坊(突貫小僧)の前に怪しい男、文吉(斎藤達雄)が現れ、いい場所があると言って連れ去った。腕白な鉄坊は、おもちゃや菓子で機嫌をとる文吉を困らせる。親分(坂本武)の家へ行って鉄坊の悪戯はおさまらず、ついに追い出されて、元の場所にもどされる。と、そこで遊んでいた仲間、文吉はなんでも買って

れるおじちゃんだと教え、子供たちは文吉を追いかけ行く。この当時、家庭用に流通していたパテ・ベビーの9.5ミリ版から35ミリ(ネガ、及びポジを作製した)にブローアップした復元フィルムである。一昨年、開催された「小津安二郎生誕90年フェア」(第6回東京国際映画祭)でも上映された作品。昨年の「サイレント・ルネサンス 映画と音楽の新たな出会いに向けて」(於、

朝日ホール)の上映では、大友良英とモスキート・ペーパーが音楽を付けた。(16分・20fps・35mm・無声・白黒・ピアノ伴奏付き)



'29年(松竹) 小津安二郎 野津忠二 菊池幽芳 田中雄 野村英、茂原英雄 突貫小僧(青木富夫)、斎藤達雄、坂本武

争闘

ニューヨークの裏街で南京鼠のサム(高木新平)は、寄席芸人の李鳳勝(関操)と日本の娘お花(松葉文子)を悪漢、流彩元(荒木忍)から救い出し、二人を連れて日本へ帰国した。李は自分と娘を乗せてアメリカへ渡った妻を追っていたのだ。彼には日本に置いたままにした娘、美代子(森静子)がいた。ふとしたことで、サムが危難を助けた娘が李の探していた美代子だと分かり、サムは李を伴って訪ねた。だが、彼女は育ての親に魔窟に売り飛ばされた後だった。サムは友人の黒

瀬(竹村信夫)と悪の巣窟に乗り込み、大格闘の末に美代子を取り戻した。高木新平は「鳥人」と呼ばれるほど敏捷な動きで人気のあった俳優。この作品でも高層ビルでの格闘、隣りのビルの屋上へ飛び移るアクションなどの大業を各場面で見せている。「日本映画俳優全集 男優編」の記述によれば、その「鳥人」の所以となったのがこの「争闘」で、このとき彼は神戸の大阪商船三井ビルから降りたオリエンタルビルに、飛んでみせたのであった。一

般にマキノ映画は「時代劇」といったイメージで記憶されているが、このような若々しい現代劇も数多く作られていたのである。(90分・18fps・35mm・無声・白黒・ピアノ伴奏付き)



'24(マキノプロ) 金森万象 島崎雪村 喜多呂九平 大塚周一 高木新平、関操、青山万里子、森静子、荒木忍、松葉文子、水島欣三郎、中村芳江、衣笠英子

A-3 10/26(木)6:30pm 10/31(火)6:30pm

小羊

賀古残夢監督は新派の奥役(舞台監督)出身で詩人、新しい映画の手法などにも興味を示し、一時期「活動写真真流」が主導権をとった蒲田撮影所の中核でも、話のわかる進歩派だったという牛原虚彦監督のことが残っている。この作品のストーリーの飛躍ぶりとはともかく、染調色の画面の美しさはやはり印象に残るだろう。サイレント映画は決して白黒映画ではなかったのである。とくに火災の場面など。なお、彼の作品の中では伊藤大輔脚本による「酒中日記」(20)の評価が高い。女優、錦子(英百合子)に恋をして、撥ねつけられた志村優(諸口十九)は傷心のまま漂泊の旅に出た。北

海道のある牧場のそば、行き倒れになっていた彼を助けたのは、牧場の娘、お豊(川田芳子)であった。羊を追って暮らす、志村の新しい生活が始まった。やがてお豊との恋も芽生えはじめた。しかし、以前からお豊をねらっていた悪人(勝見庸太郎)は、邪魔者の志村を葬ろうと企み、彼を襲い断崖から投げ落とした。だが、志村は奇跡的に助かり、なおその上に金鉱を発見したのであった。時がたった。今や金鉱王となった志村。彼は久しぶりに牧場を訪ねてみたが、そこにはお豊一家の姿はなかった。一方、錦子は新聞記事で、自分が捨てた志村が黄金王と呼ばれていることを知り、手紙

を書いて彼を自宅へ招いた。錦子の家で働いている女の中に、寂しそうなお豊がいた。錦子は志村を誘惑するが、彼は受けつけない。彼女を退けて家を出ようとしたとき、眼の中にお豊の姿が飛びこんできた。思いがけない再会。志村は彼女を連れて、錦子の家を立ち去るのだった。(53分・18fps・35mm・無声・染色版・ピアノ伴奏付き)



'23(松竹) 賀古残夢 安田憲邦 野村英 諸口十九、川田芳子、英百合子、磯野平二郎、中川芳江、勝見庸太郎、河村黎吉

涙の愛嬌者

与太者シリーズやヒット作「愛染かつら」(37)などで知られる野村浩将監督が、ペーソスを湛えた作風を特徴とする伏見晃の脚本を得て、子供たちの世界を軽くスケッチしてみせた小品。野球がいかに普及していたかがよく分かるところが面白い。野球好きの少年(小藤田正一)がユニフォームを欲しがると、露店商を営む父

(新井淳)は許さない。暮らしては貧しく、姉(高尾光子)も彼も父の仕事を手伝う毎日を送っていた。涙ながらにユニフォームが欲しいと訴える少年に対して、父は彼を進学させるために節約しているのだと静かに説いた。少年は父の心を理解した。雨の日、傘を売っていた彼は、野球仲間少年と会いユニフォームを譲ってもらうこと

になった。(41分・18fps・35mm・無声・白黒・ピアノ伴奏付き)



'31(松竹) 野村浩将 伏見晃 高橋吉吉 小藤田正一、高尾光子、新井淳、半田日出丸、突貫小僧、阪本武、山口勇、関時男

A-4 10/27(金)6:30pm

大ホール上映作品・イベント

シネマの冒険 闇と音楽

ブリジット・ヴァン・デル・エルスト講演会／「緑はるかに」特別上映会

地雷火組

原作は大仏次郎の時代小説。オリジナルは三篇からなる大作である。第一篇は'27年7月14日、二篇は7月22日、最終篇は翌'28年7月13日に公開されている。当時は河部五郎と大河内傳次郎の人気が拮抗していたことがよくわかるだろう。この「地雷火組」も「突貫小僧」と同じく9.5ミリのパテ・ベビー版から35ミリ(ネガ、及びポジを複製した)にブロー・アップしたものである。ご覧になれば明らかのように、チャンバラや乱闘場面をダイジェストしたような編集で、物語を心得ていないとよく理解できない部分もあるので、それを少し補ってきたい。

幕末の長州藩には、龍と呼ばれた桂小五郎(河部五郎)と虎と言われる左橋与四郎(大河内傳次郎)がいた。その長州藩は盟約を裏切った因州藩の家老、城

戸重藏(喜多次郎)を狙っており、ある日、桂たちは襲撃した。が、娘の夏絵(桜木梅子)の孝行に桂は決行を思い止まる。白河の仙太(葛木香一)の家に潜んでいた桂は、捕り方に襲われて天井につるし上げられた。その窮地に駆けつけたのが、左橋が率いる地雷火組である。臆病風になつかれ、屋敷から逃げだした城戸を殺したのも左橋だった。身の危険を察知した桂は福井に落ちのびようとしたが、新選組に捕らえられた。桂に心引かれていた女、天人お吉(酒井米子)は桂を逃がしてやるが、情夫の金助(尾上多見太郎)は怒り、ついにお吉は金助を殺してしまう。その頃、密告により勤皇党は新選組に倒された。そのことを歌次(梅村蓉子)から知らされた左橋は、裏切り者を追いつめて斬ったが、新選組に囲まれ乱闘となった。多勢に無勢。激しい戦

いが続く。歌次が駆けつけた時、左橋は虫の息だったが、倒幕の密書を桂に渡すべく、鐘撞堂にたどり着く。桂と再会した彼は役目を果たし、歌次に鐘をつかせ、その音を聞きながら腹を切った。歌次も後を追う。そして大政奉還、官軍の将となった桂は二人の霊の前で頭をたれるのであった。(31分・18fps・35mm・無声・白黒・ピアノ伴奏付き)

'27~'28(日活)◎池田富保◎大仏次郎◎松村清太郎、田島青春(第一、二篇)、中西与之助(最終篇)◎河部五郎、大河内傳次郎、喜多次郎、尾上多見太郎、葛木香一、市川百之助、川上弥生、桜木梅子、酒井米子、梅村蓉子



天野屋利兵衛【部分】

赤穂義士外伝の一つ。大石内蔵助(三樹豊)の内命を受けて、義士たちの武器調達に力を尽くした堺の商人、天野屋利兵衛(大河内傳次郎)の物語。秘密を守るために妻(梅村蓉子)を離別し、無頼漢の義兄、源次(市川小文治)を殺してまでも、赤穂浪士を支援した忠義の商人を、大河内傳次郎が熱演している。監督の池田富保には赤穂義士伝三部曲があり、

これはそのうちの一本。他に「不破数右衛門」「赤垣源蔵」('28)がある。彼は国民的大スターと呼ばれた、尾上松之助の義弟に当たり、「荒木又右衛門」('25)など晩年の松之助映画の革新に貢献し、松之助の没後は日活の首席監督として、オールスター・キャストの大作を数多く手がけている。なお、この作品も9.5ミリのパテ・ベビー版からの復元である。(17分・18fps・35

mm・無声・白黒・ピアノ伴奏付き)

'28(日活)◎池田富保◎長谷部武臣(池田富保)◎中西与之助◎大河内傳次郎、梅村蓉子、中村英雄、市川小文治、三樹豊、尾上華丈、久米謙、沢田清、鳥羽陽之助



長恨【部分】

この作品は伊藤大輔の日活入社第1作であり、また後に時代劇のゴールデン・コンビと称される彼と大河内傳次郎が初めてコンビを組んだ記念すべき作品である。ともに1898年生まれ。映画界への第一歩を松竹蒲田に印した伊藤は、様々な曲折を経て、ついに活躍の舞台を日活京都撮影所に求める。第二新国劇出身の室町次郎が同郷(大分県)の池永浩久所長の伝で、その同じ撮影所の門を潜ったのは1926年の夏のことであった。

漢学者、沼田忽左衛門(尾上卯多五郎)の屋敷に潜伏していた。忽左衛門には美しい娘、雪枝(川上弥生)がおり、兄弟はいつしか彼女を恋するようになっていた。新選組に襲われた沼田家では、忽左衛門が死に、次馬は失明、その看病にあたった雪枝と次馬は結ばれる。失意の一馬は雪枝に似た芸妓の松栄(川上弥生)に溺れるが、彼女には新選組に恋人、榊半三郎(川田弘道)がいた。世の中やに受け入れられぬ一馬の鬱屈した感情は、新選組との戦いで爆発、松栄と半三郎を斬殺してしまう。その半三郎から奪った密書を次馬に託し、雪枝ともども都から逃した一馬は、新選組や捕方と激しく戦い、斬り死にしていく。

最終巻はその乱闘場面を中心に描かれており、その力強い演出、演技、見事なカメラワークは、ある種の興奮を誘うものがある。逃れていく次馬と雪枝をカットバックした描写も印象的である。なお、オリジナル・プリントは35mmの可燃性ポジフィルムである。(12分・18fps・35mm・無声・染色版・ピアノ伴奏付き)

'26(日活)◎伊藤大輔◎渡部六蔵◎大河内傳次郎、久米謙、尾上卯多五郎、川上弥生、市川百之助、川田弘道、室町英次郎



風雲城史

ベルギーの王立シネマテークで発見、復元された松竹京都作品。林長二郎時代の京都作品は、あまり残されていないために貴重であり、スター中心の映画作りがどのようであったかをよく伝えている。彼の若々しい動きは魅力的である。映画の発見・復元が国境を越えた作業であることを、教えてくれる一例でもある。

江戸から帰藩した相沢新八(林長二郎)は、許嫁の千草(千早晶子)が藩主の側室になっていることを知り愕然とする。また、藩政が藩主の従兄の策謀のため危機に瀕していることを知り、同志とともに立ち上がる。(76分・18fps・35mm・無声・白黒・ピアノ伴奏付き)

'28(松竹=衣笠映画聯盟)◎山崎藤虹◎星哲六◎田谷英一◎林長二郎(長谷川一夫)、千早晶子、風間草六、正宗新九郎、中川芳江、小沢若一郎、小川雪子、相馬一平



A-5 10/28(土)3:00pm 11/1(水)6:30pm

ピアノ伴奏者紹介(A2~A5までの番組担当)

柳下美恵(やなした・みえ)

名古屋市出身。無声映画伴奏者。武蔵野音楽大学音楽科(ピアノ専攻)卒。近藤千穂、坂井玲子各氏に師事。スタジオ200(西武百貨店池袋店)に籍中に映画に傾倒し、東京国際映画祭事務局勤務を経て、音楽と映画の両分野にわたる無声映画伴奏者になるべく研鑽を積む。現在、小岩図書館(江戸川区)で定期的に無声映画の伴奏を続けており、昨年はポルデノー無声映画祭(イタリア)にも参加した。



渡辺雄一(わたなべ・ゆういち)

東京都出身。作曲家、ピアニスト。国立音楽大学在学中より作曲、オーケストレーションをピエール・ポルト氏に師事。リカルド・郷愁のあるメロディを絶賛される。現在、作曲・編曲・ピアノ演奏を中心に、オリジナル曲でのオーケストラコンサートや、各種イベントなどで演奏活動中。また楽譜出版にも力を注ぎ、代表作に「スクリーン・ベスト・セレクション1・2」「ピアノ・キッズ・コンサート」(共同音楽出版社刊)がある。



ブリジット・ヴァン・デル・エルスト講演会

演題:「フィルム・アーカイヴとFIAFの存在意義」

A Cinema 100 Anniversary Lecture by Brigitte van der Elst
"WHY FILM ARCHIVES? WHY FIAF?"

ブリジット・ヴァン・デル・エルスト氏(1934年ベルギー生まれ)は、1971年にブリュッセルにある国際フィルム・アーカイヴ連盟(FIAF)事務局の事務局長に就任以来、映画百年を迎えた本年まで同職にあって、FIAFの活動を支え、世界のフィルム・アーカイヴ間の

連絡調整にあたってきました。1938年に創立されたFIAFが真に国際的な団体になっていく1970年代以降の四半世紀を、FIAF事務局の多忙な仕事を通してつぶさに見てきた彼女の回想と意見は、わたしたちに、フィルム・アーカイヴとは、FIAFとは何かを具体的に知

らしてくるでしょう。映画百年の年に、あらためて映画文化保存の意味を考える絶好の機会として、多くの映画ファン、関係者の皆様が、この講演会へご参加下さいますようお願い申し上げます。(フランス語主体、通訳あり)



B-1 11/3(金)1:00pm

コニカラー: 甦る国産カラー・プロセス 「緑はるかに」特別上映会

Special Screening of a Restored Konicolor Feature: *Midori Harukani/Far off in the Green*

色彩映画には大きくわけて、テクニカラーのように3色分解ネガによる方式と、イーストマンカラーのように1つのネガに3層の乳剤が塗ってある方式とがあるが、コニカラーは前者のように、青・緑・赤の各ネガを1つの撮影機(ワンショット・カメラ)によって撮影し、1本のポジフィルムに順々に焼き付けていく方式。戦前より、小西六写真工業が開発に従事し、この「緑はるかに」が、コニカ

ラーシステムによる長篇劇映画の第1作となった。さらにこの作品は日活における総天然色映画の最初の作品であり、浅丘ルリ子のデビュー作ともなった。40年ぶりに甦った今回の復元にあたっては、当時コニカラーの開発および現像に携わった日本色彩映画の後継会社である東映化学工業(株)技術陣の多大な協力が不可欠であった。(90分・35mm・カラー)



'55(日活)◎井上梅次◎北條誠◎柿田勇◎木村威夫◎米山正夫◎浅丘ルリ子、高田稔、植村謙二郎、市村俊幸、内海突破、フランキー堺、有島一郎、岡田真澄、北原三枝、藤代鮎子、浅沼創一

B-2 11/3(金)3:00pm

日・月	火	水	木	金	土
大ホール 15 16	1:00pm 4:30pm 7:00pm 芸術祭主催公演 「日本映画名作鑑賞会— 日本の青春'45~'95」	1:00pm 3:00pm 6:30pm 芸術祭主催公演 「日本映画名作鑑賞会— 日本の青春'45~'95」	1:00pm 3:00pm 6:30pm 芸術祭主催公演 「日本映画名作鑑賞会— 日本の青春'45~'95」	1:00pm 3:00pm 6:30pm 芸術祭主催公演 「日本映画名作鑑賞会— 日本の青春'45~'95」	11:30am 2:00pm 4:30pm 芸術祭主催公演 「日本映画名作鑑賞会— 日本の青春'45~'95」
大ホール 22 23	6:30pm A-1 忠次旅日記 (94分・無声) 弁士:澤登翠	6:30pm A-2 乳姉妹 (137分・無声) ピアノ伴奏付き	6:30pm A-3 突貫小僧 (16分・無声) 争闘 (90分・無声) 全作ピアノ伴奏付き	6:30pm A-4 小羊 (53分・無声) 涙の愛嬌者 (41分・無声) 全作ピアノ伴奏付き	3:00pm A-5 地雷火組 (31分・無声) 天野屋利兵衛 (17分・無声) 長恨 (12分・無声) 風雲城史 (76分・無声) 全作ピアノ伴奏付き
大ホール 29 30	6:30pm A-3 突貫小僧 (16分・無声) 争闘 (90分・無声) 全作ピアノ伴奏付き	6:30pm A-5 地雷火組 (31分・無声) 天野屋利兵衛 (17分・無声) 長恨 (12分・無声) 風雲城史 (76分・無声) 全作ピアノ伴奏付き	6:30pm A-1 忠次旅日記 (94分・無声) 弁士:わかこうじ	1:00pm B-1 ブリジット・ヴァン・ デル・エルスト講演会 (60分程度) 3:00pm B-2 「緑はるかに」 特別上映会 (90分)	3:00pm A-2 乳姉妹 (137分・無声) ピアノ伴奏付き

10月17日(火)~10月21日(土)は、大ホールで、平成7年度(第50回記念)芸術祭主催公演「日本映画名作鑑賞会—日本の青春'45~'95」が開催されます。1日3回上映し、入場無料ですが、すべて予約申込み制で、当日売り等はありません。鑑賞ご希望の方は、往復葉書に住所・氏名・電話番号・希望日(1日のみ指定)を書いて、下記の宛先までお申込み下さい。各日分とも、応募者が300名に達したところで申込みを打ち切ります。なお、上映番組、応募方法等の詳細は、当該チラシをご覧になるか、(社)日本映画製作者連盟芸術祭係まで直接お問い合わせください。

応募の宛先/お問い合わせ先 〒100 千代田区大手町1-7-2サンケイビル別館 (社)日本映画製作者連盟芸術祭係 Tel.03(3231)6351/(3231)6352

展示室

映画生誕百周年記念

ポスターでみる日本映画史—みそのコレクションより—

Japanese Film History in Posters —From the Collection of Kyohei Misono—

10月17日(火)—11月4日(土)/11月14日(火)—12月23日(土)

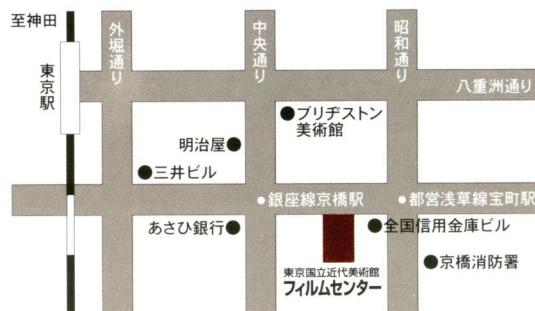
入場無料

御園京平氏が生涯をかけて収集、保存してきた貴重な映画ポスター・コレクションを通して、日本映画の歴史を辿ります。とりわけ、日本に映画が伝来したころの珍しいポスターは、映画生誕百年の今、人々に映画の始まりとその受容のさまを具体的に語りかけてくれるでしょう。

1階受付では、「NFCニューズレター」(隔月刊)を販売しています。これは、フィルムセンターのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルム・アーカイヴやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用ください。

fiaf
100 cinema

東京国立近代美術館フィルムセンターは、国際フィルム・アーカイヴ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。1995年は、ノリのグラン・カフェで初めて映画の公開上映が行なわれてから百年目にあたり、世界中でこの「映画百年」のさまざまなお祝いが行なわれています。新フィルムセンターの開館とその一連の事業は、映画というメディアの生誕百周年を祝うFIAFの精神に基づいています。



営団地下鉄 銀座線新大塚駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄 浅草線宝町駅下車、出口A4から銀座通り方向へ徒歩1分
営団地下鉄 有楽町線銀座一丁目駅下車、出口9より徒歩5分
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分